

第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

石川県内灘町立内灘中学校 酒井 紀幸

A-23

【活動名】 判例等を活用したスクールコンプライアンスの意識向上

解決すべき課題： どんな問題を解決しましたか？

学校現場では、大きな問題にならなくて良かった事案や初期対応のまさから保護者の不信を招いてしまった例がある。未然防止や早期対応により学校・教職員と保護者のよりよい関係が築かれていくこと及び学校の信頼を得ていくための大切な視点や生徒・保護者等とのコミュニケーションスキルの充実を図りたい。

目的や背景： 解決すべき課題の背景や、活動の目的をおしえてください

法規は、管理職以外の教職員にはあまり関係ないと考えたり面倒であるという意識を持つたりしている。また、子供が関わる大きな事件・事故が報道されたときは真剣になるもの、常に高い意識で対応しているとは言いがたい。以下の2点を取り組み、教職員を守るための法規（判例の理解）の考え方を及びコミュニケーション力向上を図っていく。

- 1 学校現場に潜む、判例からみる未然防止の紹介及び学習
- 2 話し方（保護者対応）の基本について

そして、危機管理意識の「さ・し・す・せ・そ」（さ：最悪を考え、し：慎重に、す：すばやく、せ：誠意を持って、そ：組織的な対応を）ができる高い意識をもった声かけや指導ができる職員の育成を図っていく。

活動内容： 何をしましたか？

「研修成果活用部門」については、研修のどのような内容を活用して課題解決につなげたかがわかるように記載して下さい。

- 1 法規・判例及び保護者対応の不安に関する教職員への事前の意識調査（11月29日）
- 2 取組・資料提供（教職員全員 48名対象）

【目標】判例研修（取組(1)(3)(5)）、コミュニケーション力研修（取組(2)(4)(5)）を通して、危機管理意識及びコミュニケーション力の向上を図る。
・意識調査（4段階評価尺度によるアンケートや感想）から意識の変容等をみる。

- (1)スクールコンプライアンス（判例等）・・・職員朝礼で資料配付（1回）

教員離席事故損害賠償事件をもとに日常業務に潜む事故を未然防止の観点で考えた。

（中央研修「教育法規」日本女子大学 教授 坂田 仰 氏の資料を引用）

- (2)「いじめの連絡を受けた」場合の保護者対応例・・・職員朝礼で資料配付（1回）

「保護者の安心・信頼につながる対応術」（河村茂雄著：合同出版社）を引用し、保護者対応の基本を考えた。

- (3)スクールコンプライアンス（判例等）・・・職員会議等での研修（1回）

仮入部活動中視力障害事故事件をもとに危機管理のあり方を学校・保護者・裁判所の考え方をもとに研修した。

（中央研修「リスクマネジメント」淑徳大学 教授 黒川 雅子 氏の資料を引用）

- (4)「コミュニケーション（中央研修：音楽座）」の演習の一部を行い、コミュニケーションの研修を行う・・・校内研修会（希望者：9名参加）

- (5)主任会・運営委員会（毎週火曜日）での資料説明及び啓蒙（2回）

- 3 研修を終えての意識調査（12月25日）

活動の成果： それによって、どんな成果が得られましたか？

- 1 法規・判例を示すことで教職員の危機意識が変容したこと

- (1)【アンケート調査】

事前調査で、法規や判例を意識している教職員は、61.7%であった。事後調査では、「リスクマネジメント」の判例等が参考になったが、100%であった。〔添付資料 図表 - 1、図表 - 5〕

取組(1)「教員離席事故損害賠償事件」、(3)「仮入部活動中視力障害事故事件」の資料が参考になったが、それぞれ 82.6%、84.8%であった。〔添付資料 図表 - 6〕

「コミュニケーション」（音楽座）の演習の一部を行った。コミュニケーションの研修の資料の参考になった教職員は、88.9%であった。〔添付資料 図表 - 6〕

- (2)【法規・判例の感想】

参考になった

具体的な事例資料での判決のポイントが示されることで、自分の指導でも注意すべき視点がわかりよかった。

事故が起きる可能性を1%でも下げるために全員で意識・声の掛け合いが大切である。等（15人）

事故に際して、実際の金額が示されると、これから気をつけなくてはという気持ちになる。

研修や話題にして欲しい

定例的に行われる職員会議や校内研修会で、ケーススタディを行えると全体のレベルアップになる。等（6人）

初任者研修でも活用していきたい。（初任者拠点校指導教諭）

ケースによるマニュアルをある程度作っておくと良いと思う。

- (3)【「コミュニケーション」（音楽座）の演習の感想】

相手の気持ちを理解した上でコミュニケーションが成り立つことを学んだ。「水」「鏡」「いいね」「21」は参考になった。他のトレーニング方法があれば、ぜひ学習したい。

保護者の話を聞くときは、事実と憶測を識別しながら聞くことを意識し、記録を取りたいと思います。

対同僚、生徒、保護者、身近な人すべてと関わる上で非常に大切ですが、自分を通しすぎる方や他を受け入れない方がいるとつい諦めてしまったり、自分が引けばいいと思ったりしまいがちです。うまく人の意見も聞き入れつつ、全体が良い方向に進むようにもっていくか、日頃から訓練と思って努力したいです。

「コミュニケーション」（音楽座）の資料には、コミュニケーションの基本（感じること、誰も悪くしようと思っていない、LILIの法則（聞く・伝える・導く・巻き込む））が書かれていた。大切な指標にしながら、実践を通してより良いコミュニケーションを行っていきたい。

アピールポイント（アイデア）： もっとも、がんばったこと、注目したことをアピールしてください。

事前調査で、部活中や授業中、対人関係（いじめ）の事故・事件の判例に関心があることが分かった〔添付資料 図表 - 3〕

職員会議の議件として「リスクマネジメント（仮入部活動中視力障害事故事件）」を説明し、判決の論旨や学校・保護者・裁判所の視点、学校が取るべき事前・発生時・発生後の対応を話し合えた。〔添付資料 写真 - 1〕

職員会議等での全員参加の研修で、研修内容を焦点化することが有効である。

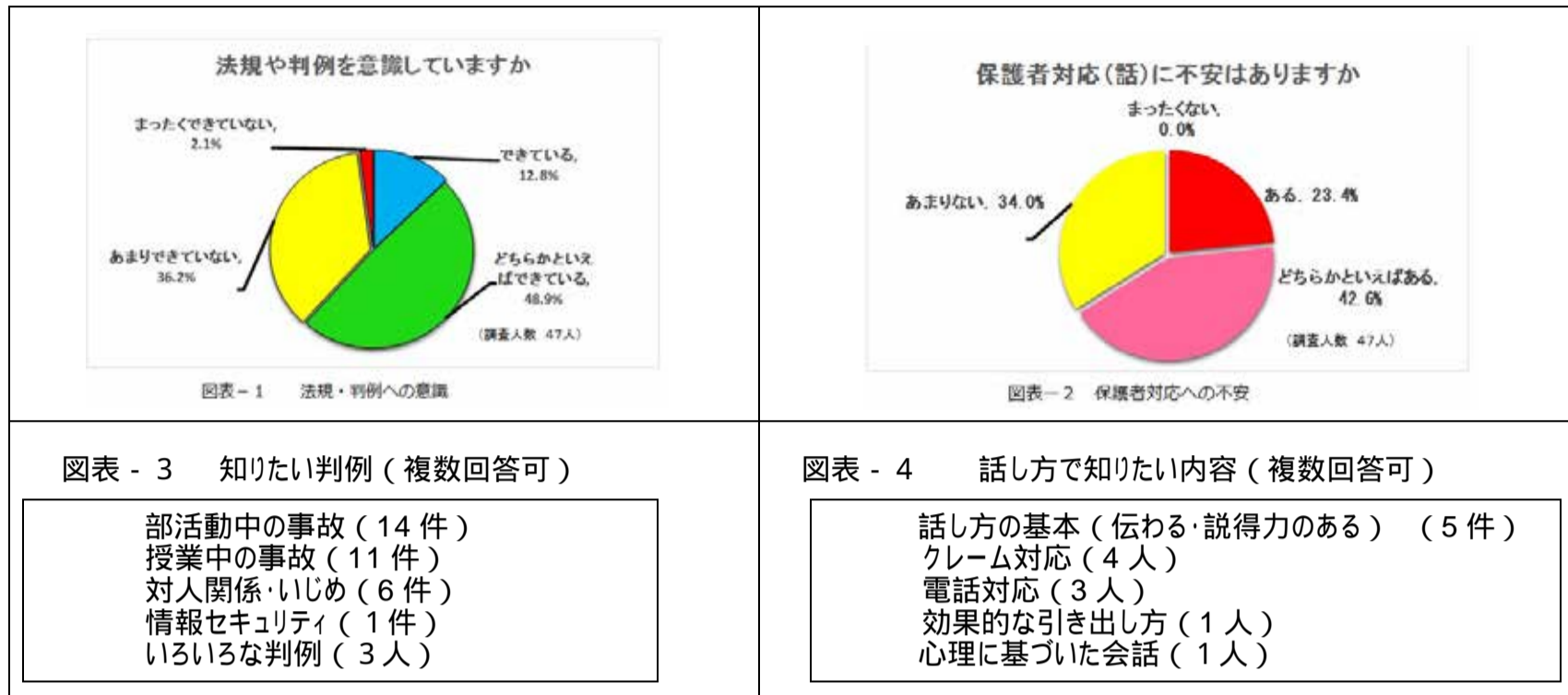
「コミュニケーション」（音楽座）では、You-tube「リトルプリンセス 2011 ダイジェスト」や「三越おもてなし教室」の動画を活用しながら、校内研修会を実施した。〔添付資料 写真 - 2、3〕

添付資料

1 法規や判例、保護者対応の現状（事前意識調査）（平成 29 年 11 月 29 日 実施）

教職員の法規・判例意識の弱い教職員が 38.3%いる（図表 - 1）。また、部活動や授業中の事故、いじめ等の対人関係のトラブルに対する判例に関心が強い（図表 - 3）。

保護者対応に不安を抱いている職員が、65.4%おり、伝える話し方やクレーム対応、電話対応について知りたいと思っている現状があった（図表 2、図表 4）。



2 取組内容

事前アンケートを踏まえ、授業中や部活動、対人関係（いじめ）の事故における判例やコミュニケーションについて、職員朝礼（資料を配付）や職員会議、校内研修会で学習した。

(1) 資料の配付

- 「授業中の離席事故 賠償金 4,000 万円」（職員朝礼で資料配付）
- 「いじめの連絡を受けた」場合の保護者応例（職員朝礼で資料配付）
- 「保護者の安心・信頼につながる対応術」（河村茂雄著：合同出版社）を引用した資料
- 職員会議での研修「リスクマネジメント 仮入部中の事故 賠償金 1,000 万円」（写真 - 1）
- ・「仮入部中の事故」をもとに、どのような対応が必要か考えた後、判例の論旨を説明した。
- ・学校、保護者、裁判所の視点で事故を俯瞰し、危機管理意識と指導の重要性を説明した。
- ・事前、発生時、事後の取組を説明した。
- 「中央研修「コミュニケーション力」（音楽座）」の資料を引用し、校内研修会を実施した。（写真 - 2、3）
- ・「水」「鏡」「いいね」「21」を通して、ノンバーバルコミュニケーションの大切さを実感したことを Feelnote に記入し、殻を破ることや他者を受け入れること等を意見交換で確認した。
- ・LILI の法則（聞く・伝える・導く・巻き込む）の説明を行った。



写真 1 職員会議の中で説明

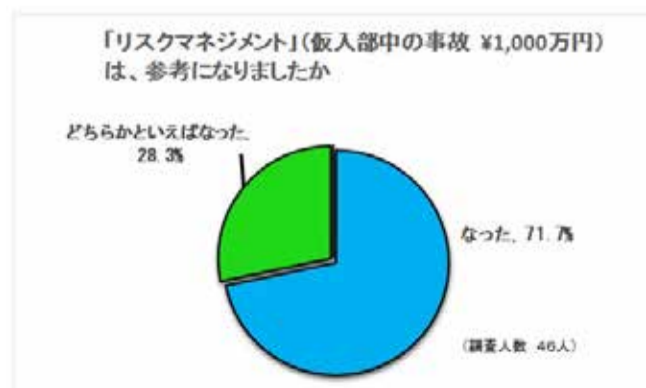


写真 2 校内研修「コミュニケーション」（音楽座）



写真 3 校内研修「コミュニケーション」演習の様子

3 事後調査（平成 29 年 12 月 25 日 実施）



図表 - 5 「リスクマネジメント」（職員会議）は参考になったか。

図表 - 6 配付資料は、参考になりましたか。

	参考になった (%)
(1) 「授業中の離席事故」 4,000万円	82.6
(2) 「いじめの連絡を受けた」場合の保護者対応	56.5
(3) 「仮入部中の事故」 1,000万円	84.8
(4) コミュニケーション(音楽座)	88.9